

Vol.52 October 2011

Shinko Hospital

Medical News

<http://www.shinkohp.or.jp/>

発行:医療法人社団 神鋼会 神鋼病院
〒651-0072 神戸市中央区臨浜町1丁目4-47 電話:078-261-6711(代表) FAX:078-261-6726
発行責任者:病院長 山本正之 編集責任者:神鋼病院広報委員会 委員長 山神和彦

呼吸サポートチーム

Respiration Support Team

ごあいさつ

呼吸器内科
医長 松岡 弘典

神鋼病院では、平成23年5月より呼吸サポートチーム(Respiration Support Team, RST)を結成し、活動を開始いたしました。

RSTとは医師や看護師、理学療法士、臨床工学技士などが専門的知識を持ち寄り、院内における呼吸療法が安全で効果的に行われるようサポートするチームのことです。

当院では集中ケア認定看護師の笹村看護師を中心に、人工呼吸器管理に興味を持ってきている若手医師、感染管理認定看護師、薬剤師達にも参加していただき、週に一度回診を行っています。

また、症例によっては栄養管理が重要になるケースもあり、栄養サポートチームに相談するなど、他チームと連携して活動にあたっています。

チームで回診することにより、リアルタイムに各スタッフが問題点を拾い上げ、方針を決定していけます。これは短時間で病態が変化しうる急性期の症例を診ていく上で大きなメリットと感じています。

また、当院は急性期病院であることから人工呼吸器を使用することが多く、

ICUのみならず一般病棟で人工呼吸器管理をすることもあります。人工呼吸器管理の経験が少ないスタッフの負担軽減を図るとともに、患者さんが人工呼吸器から早期離脱ができるよう、チーム一丸となりサポートしていきたいと考えております。

さらに、今後は勉強会、マニュアル作成などを通し、呼吸ケアに関する技術、知識の標準化を図っていくことも大きな課題と考えております。

集中ケア認定看護師として

看護部 集中ケア認定看護師
呼吸療法認定士 笹村洋之

ゼロからのスタートで多くの戸惑いや不安がありましたが、少しずつ形になってきたところでしょうか。

人工呼吸器の装着は、患者さんの生命維持や救命のためには必要な治療ですが、同時に患者さんのADLやQOLを大きく低下させてしまう要因になります。

RSTの回診は週に1回行っており、人工呼吸器の設定やウイニングの方法、鎮静の方法や理学療法など、包括的な呼吸管理を患者さんにあわせて検討を行っています。

さらにRSTの一員として、また認定看護師として病棟を巡回し、一日でも早く患者さんが人工呼吸器から離脱し、安楽

な呼吸ができるように呼吸管理についてのアドバイスや指導を行っています。場合によっては直接ケアに参加することもあります。

人工呼吸器管理のみではなく、気道管理や排痰援助、呼吸理学療法、口腔ケアなど様々な内容で呼吸ケアの質の向上を図っていくことができればと考えています。

各病棟にリンクナースを配置し、協力のもと、少しずつですが私たちの活動が認知されはじめ、病院スタッフの呼吸管理に対する意識も日に日に高まってきていると感じています。「私たちの活動が、今後の当院での呼吸管理の質を



Hirofumi Matsuoka

PROFILE

神鋼病院 呼吸器内科

医長 松岡 弘典

高知医科大学 平成11年卒業

- ・日本内科学会認定医
- ・総合内科専門医および指導医
- ・日本呼吸器学会専門医
- ・日本アレルギー学会専門医



笹村 洋之
集中ケア認定看護師
呼吸療法認定士



谷口 とおる
感染管理認定看護師



生島 秀樹
理学療法士



山本 竜也
臨床工学技士
呼吸療法認定士



角井 知佳
薬剤師

大きく左右する」と、その使命感にあふれています。

現在のところ、最も問題と感じているのは、病棟によってケアの方法や考え方が異なっているという点です。これについては、今後マニュアルやプロトコルの作成、呼吸ケアに関する勉強会を行い、院内における呼吸ケアの統一化を図っていきます。また、院内のスタッフの呼吸療法認定士の資格取得にも協力していきたいと考えています。

活動を開始して、まだ日の浅いチームですが、少しでも患者さんのお役に立てるよう日々研鑽を積み重ねていきたいと思っています。

感染管理認定看護師として

感染管理認定看護師
谷口 とおる

人工呼吸器を使用する際大きな問題となるものに、人工呼吸器関連肺炎(ventilator associated pneumonia: VAP)があります。

人工呼吸器を使用しなければならない患者さんは、疾患や手術などにより過大な侵襲を受けており、感染リスクは健常者よりも高いとされています。

VAPの発症により、致死率が高まるうえ、治療に時間を要し、医療費を増大させるなど、さまざまな悪影響を及ぼす事は明らかであり、可能な限りVAPを予防することが必要であることはいうまでもありません。

感染管理認定看護師がRST(呼吸

療法サポートチーム)の一員としてチームの医療職種と連携することで、VAP予防対策を推進するとともに、その他の院内発症の肺炎(hospital acquired pneumonia:HAP)を減少させることができるよう、関わりを持ちたいと思います。

理学療法士として

リハビリテーション室
理学療法士 生島 秀樹

呼吸ケアチームにおける理学療法士の役割は、人工呼吸器装着中の患者に対して①分泌物貯留、無気肺、肺炎の予防や改善、②早期離床、③廃用症候群の予防と早期ADL再獲得です。

呼吸理学療法は呼吸練習、排痰療法だけでなく運動療法も含め広い治療選択を持ったものです。よってリスク管理をしたうえで人工呼吸器装着中からでも運動療法による筋力の向上を図るとともに早期離床目的で座位や立位練習も行っています。

医療機器 安全管理責任者として

診療技術部臨床工学室
臨床工学技士 山本 竜也

人工呼吸器の管理については、呼吸器を患者装着時と未装着時の2つの場面が考えられます。

人工呼吸器使用時においては、患者さん、医療スタッフが安心して人工呼吸器を使用できるようRSTのラウンド

に加え、臨床工学技士による毎日の使用時点検を行っています。人工呼吸器を使用していない時は定期点検を行い、いつでも人工呼吸器が安全に使用できるように準備しています。

また、医療スタッフに対して研修会を行うことで緊急時においても的確に機器を使用できるようトレーニングしています。

さらに、近年人工呼吸器における呼吸管理は多様化しており、当院においても挿管型人工呼吸器を始めとし非挿管型人工呼吸器(NIPPV)、在宅用人工呼吸器等、多種多様なデバイス、呼吸モードを使用しているため、学会・研究会などに参加することで最新の医療情報を得ると共に、医療現場へのフィードバックを心がけて活動しています。

薬剤師として

診療技術部薬剤室
薬剤師 角井 知佳

人工呼吸器装着中の患者さんは全身状態も悪く、多くのケースで多種多様な薬剤を使用しています。そのため、薬物治療はより複雑化し、薬物間相互作用や腎機能・肝機能の低下に伴う薬物動態の変化など、患者さんの状態に応じた薬物治療が必要となります。

RSTの介入により、薬学的な観点から患者さんの状態を把握し、全身状態を考慮した薬物治療を提供することで、人工呼吸器の早期離脱につながるよう心がけています。

第11回 神鋼ウロフォーラム

- 日 時：2011年10月20日(木)
18:30~20:00
- 会 場：兵庫国際交流会館2階 研修室1
(神戸市中央区脇浜町1-2-8)
- 講 演：『神鋼病院の診療2011』
神鋼病院泌尿器科 部長 山下 真寿男
- 特別講演：『OABとBPH治療のトピックスと問題点』
兵庫県立総合リハビリテーションセンター
泌尿器科部長 仙石 淳 先生

1)日本医師会生涯教育講座(1.5単位)を取得予定です。
2)お弁当をご用意しております。

神戸地区呼吸器疾患地域連携講演会

- 日 時：2011年10月22日(土)
17:00~19:00
- 会 場：兵庫国際交流会館 多目的ホール
(神戸市中央区脇浜町1-2-8)
- ご 報 告：神鋼病院呼吸器センター 松岡 弘典
- 特別講演：座長 神鋼病院呼吸器センター長 鈴木 雄二郎
『非結核性抗酸菌症の臨床』
公益財団法人結核予防会 複十字病院
臨床研究アドバイザー 倉島 篤行 先生

1)日医師会生涯教育講座認定(2単位)
2)薬剤師研修受講シール(1単位)

第4回 兵庫リウマチチーム医療研究会 開催のご案内

昨今、生物学的製剤の登場により関節リウマチの治療は大きく進歩しました。一方で、副作用や高額な治療費、患者さんの二極化など新たな問題も明らかになってきています。これらの問題に対処して適切な治療やケアを行うためには、各医療職者の専門知識の向上と、職種を超えた連携が欠かせません。

そこでリウマチに関わるチーム医療の促進の目的として『兵庫リウマチチーム医療研究会』を設立し、このたび、第4回研究会を下記要領にて開催することになりました。お忙しいところ恐縮ですが、是非ご参集頂けますようお願い申し上げます。

- 日 時：2011年11月26日(土) 16:00~19:10(15:30開場)
- 会 場：神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階瑞天 (神戸市中央区波止場町5-6 TEL:078-325-8111)
- 一般演題：4演題を予定しています
座長-神鋼病院膠原病リウマチ科 科長 辻 剛
- ミニレクチャー：『装具製作にかかわる医療・福祉制度』 澤村義肢製作所 大西 智樹 義肢装具士
座長-神鋼病院整形外科 科長 武富 雅則
- 教育講演：『膠原病患者の旅行療法』座長：神戸大学 三浦 靖史
千葉大学医学部附属病院 副病院長・企画情報部 教授・アレルギー膠原病内科 高林 克日己 先生

・参加費500円

以下の教育研修単位を取得できます。

- ・日本リウマチ財団 リウマチケア専門職教育研修単位 1単位(1000円)
- ・日本リウマチ学会 教育研修単位 1単位(1000円)
- ・日本整形外科学会 教育研修単位 1単位(1000円) リウマチ医あるいは、専門医資格継続単位(06.リウマチ性疾患、感染症、13リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む)、のいずれか)
- ・日本リウマチ学会 教育研修単位 1単位(1000円)
- ・日本リウマチ財団 登録医教育研修単位 1単位(1000円)

お問い合わせ先：神鋼病院 地域医療連携室 TEL：078-261-6739

神鋼病院理念

地域医療に貢献し、
信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に努力します。